

おにの家



地域福祉活動グループ NPO「おにの家」

埼玉県熊谷市板井1220-1 <http://onikko.org>

電話 048-536-1344 FAX 048-536-1915

第20回おにっこまつり

◎ 熊谷市



夏のような日差しの中、5月22日(日)第20回おにっこ祭りを開催しました。今回は、江南総合公園のみをお祭り会場とし、おにっこハウスはのんびりとお茶を楽しんでいただける様にケーキセットを中心にOPENしました。

おにっこ祭りはおにっこハウスの誕生をお祝いしようという事で始まったおにっこハウスの「お誕生日会」仲間同士で楽しんでいた、小さなイベントの1日。そして、20回(20年)の年月を重ね、今回の出店数は100店舗!! 沢山の方々に参加いただけるBigイベントとなりました。顔なじみのキッチンカーの方。行列をなす人気店。大量生産はできないけれど、徹夜で焼いてきてくれたパン屋さん。環境を考えた、オーガニック関連のお店。原発のこと、捨て犬のこと、ちょっと足を止めて一緒に考えて欲しい。そんなテントも…そして、何よりハンディキャップを持つ方々の多くのお店。

昨今、各地域でイベントが盛んに行われていますが、おにっこ祭りの楽しさは、大人も子供もハンディがある方もみんな1日楽しめる。そんなお祭りであって欲しいと願いながら、私たちは毎年この日を迎えます。

ジリジリとする日差しの中、涼しい林の中では子供たちの高い声が林に響き渡り、手作り感いっぱいのおにっこトーマス号が走り続けます。

大人気の毛刈りショーは黒山の人だかり。動物コーナーではヤギ、子ヤギ、ニワトリ、アヒル、ウサギ…とたくさんの触れ合いができました。

シート、ミニテントが数多く並び、ご家族で1日たっぷり楽しんでる風景が広がっていました。

舞台前では、木陰のすみや日焼けしながらと1日中あきる事のない演奏を楽しみに沢山のお客様が集まってくれました。和太鼓が鳴り響き、常夏のハワイ?!と思わせるタヒチアンダンス。圧倒的なステージで魅せるエイサー隊。ゆるキャラ人間・ミルク082さんと多彩な演奏たっぷりのメインステージでした。

他、会場内ではミニステージも設置。ゲリラライブが繰り広げられ、元気な声があちこち響き渡りました。

多くの方にご来場いただいたおまつり会場では人!人!人! その中には車椅子の方や、ハンディキャップをもつ方々もたくさん、ヘルパーさんと一緒に一店舗、一店舗ゆっくり見ている方、両手いっぱいにお買い物をしている方、ピョーン!!ピョーン!!と、嬉しくてはねている方、楽しみ方はみんなそれぞれ。

予定より遅れて始まった大目玉。「大抽選会」は、300本の大当たりくじ。ステージ前には目を輝かせた皆さんがこの時を待っていましたと大集合です。

サア~ 運だめし。

今回も23社の皆様より協賛品を頂きました。お米、ビール、カップラーメン、お茶、etc. etc. 抽選会は盛り上がり、おにっこまつりの1日は終わっていきます。

日々の忙しい中、少しづつ準備をすすめてきたスタッフ、仲間、ボランティア、丸1日駐車場に立ってくれた方、快く出店してくれたお店の方、素晴らしい演奏を聴かせてくれた舞台の方、ゴミをひとつひとついねいに捨ててくれた方、景品協力してくれた企業の方、本当にこの日の為にたくさんの方々がおにっこハウスを様々な形で応援してくれていることを強く感じます。

この日はおにっこハウスのお誕生日。皆さんに「おにっこまつりは楽しかった。また来年こよネ。」と言ってもらえる。そんな1日になってくれたら嬉しいです。そして、おまつりが終わった後もここで出逢った縁が続いていって欲しいと思うおにっこ祭りでした。

文 松村 理香



皆様、本当にどうもありがとうございました。

小原ホーム・ハイツ桜ヶ丘news

2016年6月

毎年、おにっこ祭りの幕開けはグループホームの仲間達の力強い太鼓で始まります。仲間たちが15年もの長い間、親しんでいる余暇活動に「まつっこ太鼓」があります。東松山特別支援学校の教員やなかよし保育園の保育士、地域の方々と共に月2回の活動を続けています。仲間たちは、太鼓を前にすると引き締まった表情になり佇まいもがらりと変わります。職場でも、グループホームでもみせたことのない仲間たちに出会える太鼓の時間。力強く、どっしりと腹に響く太鼓の音は長年の練習とチームワークの賜物。中学部の学生さん達からは、いつかあんな風に叩いてみたいと思われるあこがれの先輩たちです。



行ってきましたぁ!!! USJ!!!

「好きな人と好きな場所に好きな時に出かけたい」という要望を叶える第一弾! ずっと行きたかった大阪へ大好きな世話人さんと一緒に行ってきました。わくわくドキドキの大阪ユニバーサルジャパン。そして、アメリカ村やジャニーズショップでお買い物と2日間をたっぷり楽しんできました。自分でホテルや新幹線の予約を取り、旅行の日程を立て、交通機関の移動もスマホのアプリを駆使してセルフプロデュースの旅になりました。いつか京都を一人旅してみたいな。



お知らせ：世話人と休日の日中支援の職員が新しく仲間入りしました。仲間たちに学びつつ、仲間と共に過ごす時間を大切にしてくれる方たちです。

美味しいお味噌が出来ました

～～～ 味噌仕込み班より ～～～

おにっこハウスに隣接している味噌加工場では、昨年11月より自家製味噌の仕込みをおこなっていました。

新おにっこハウスに移転してから、有難い事に沢山のお客様が来店されました。お味噌の作業風景も見学に来てくださり、初めて訪れたお客様もお味噌をお買い求め頂きました。

例年、味噌の仕込みは11月後半から4月の中頃にかけて行っておりましたが、今年度は味噌の仕込む量を増やした関係もあり、5月までかかってしまいました。秋口から真冬にかけての味噌作りは、暖房を必要としないくらいにお米を蒸かした熱気で温かくなります。4月になると気温もだいぶ上昇してきますので、麴作りでお米を蒸かす作業は、真夏の炎天下にいるような暑さです。そして、麴室（こうじむろ）の中の温度も28度から32度くらいを保っている為、切り返しの作業は驚くほど汗をかきます。

昔ながらの味噌作りは、何をやるにも重労働です。お米を運ぶ、洗う、蒸かす、大豆を洗う、煮えた大豆を大釜から出して冷まし、出来上がった麴と塩を混ぜ合わせて大きなタンクに詰める。体力に自信がないとできません。そして、すべてにおいて大きな道具を使うので最後の洗い物にも驚かされます。こうして、日々の体の痛みにも耐え美味しいお味噌が出来上がります。今回は新しい仲間も増え、賑やかに温かく見守りながら作業を進めました。仕込み最終日には、「今年も美味しい味噌になりそうだね。」という会話が自然とできました。とてもいい雰囲気です。

出来上がったお味噌は、みそ詰め室に運ばれます。仲間たちの手で一つ一つ丁寧に袋詰めされてお店のショーケースに並びます。6月15日よりお中元セールが始まります。

日本人の朝食にはやはりお味噌汁が一番です。

味には絶対の自信があります。

この機会におにっこハウスのお中元をご利用ください。



「夏季のニワトリ餌事情」

～～～ 味噌養鶏班より ～～～

今年も夏が来た――！

ここ熊谷では、5月から夏入り、6月に梅雨入りして一息つき、梅雨明けからは烈火と呼びたい厳しい夏がやってきます。今年もすでに5月は夏日が続くニワトリの食欲が落ちてしまいました。人と同じですね。仲間たちは元気に仕事をしていますが、困ってしまうのは、食欲低下にともない体力の落ちてしまったニワトリの産卵率が下がり、楽しみにされているお客様に卵が届きにくくなることです。

ニワトリの食欲が戻るように、真夏に食べるそうめんのイメージで、パサパサの餌に水を加えて、「卵を産みやすく」と心でお願いしながら、練り餌にしています。タンパク質として地元の熊谷産の大豆を魔女が使っているような大鍋で、またまた「卵を産みやすく」とお願いしながらグツグツ煮てあげています。

私たち養鶏班はニワトリが元気になってくれるよう、日々心を込めてお世話し、これからも美味しい卵をお届けしたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

新人紹介のコーナー



石田尾桃実さん

この春、特別支援学校を卒業しておにっこハウスへ入社しました。

おしごとといはう
しんめいかんまり
ます。



大久保郁子さん 正木幸子さん 吉原浩恵さん

キッチンに新しい仲間が加わりました。
食べる事、作る事が大好きで、美味しいもの
談義に花が咲きます。よろしくお願ひします。



佐古亜紀さん

味噌仕込み班に仲間入りしました。
養鶏班へもお手伝い、お弁当配達にも
行きます。
オールマイティで引っ張りだこ。
よろしくお願ひします。

編集後記

梅雨に入ったとは言え、雨上がりに急激に温度が上がるのが当たり前になってしまった現在の気候。

ここ、おにっこハウスでも体調を崩す方が時折見受けられます。今、私達は変化の真っ只中におり大災害が来るなどと囁かれております。その中でも私達が1番軸において考えて行かなければならない事は、毎日が訪れ、仕事を与えられることに感謝をし、地に足をつけて目の前に起こる出来事をひとつひとつこなしていくこと。その点においてはおにっこハウスにはとても優秀な人材が揃っていると自負しております。

ただ、その忙しさに揉まれ、今回も皆様にはお中元のお知らせが遅くなりましたことお詫び申し上げます。新おにっこハウスも軌道に乗り始め、また新たな動きが始まろうとしています。次回のおにっこ新聞の発送は、早くから準備を進めていきたいと思ひます。これからの新時代と共に変わりゆくおにっこハウスの行方を今後も温かく見守っていただけたらと思ひます。最後までお読みいただきありがとうございました。

文 小山紀子